



## 2025年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年12月10日

上場会社名 株式会社GENDA 上場取引所 東  
コード番号 9166 URL https://genda.jp  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 申 真衣  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 渡邊 太樹 TEL 03-6281-4781  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年1月期第3四半期の連結業績（2024年2月1日～2024年10月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益		1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2025年1月期第3四半期	77,627	100.0	5,420	30.1	4,988	20.8	2,655	△20.1	37.08	34.60
2024年1月期第3四半期	38,808	—	4,164	—	4,126	—	3,324	—	50.94	50.14
(調整後)										
2025年1月期第3四半期	77,627	100.0	6,081	43.3	5,867	37.5	3,454	0.2	48.24	45.02
2024年1月期第3四半期	38,808	—	4,242	—	4,265	—	3,445	—	52.79	51.95

(注) 包括利益 2025年1月期第3四半期 2,929百万円 (△11.7%) 2024年1月期第3四半期 3,318百万円 (—%)

	償却前 営業利益		のれん償却前 四半期純利益		1株当たり のれん償却前 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり のれん償却前 四半期純利益
	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
2025年1月期第3四半期	9,416	55.6	3,513	2.5	49.07	45.79
2024年1月期第3四半期	6,050	—	3,426	—	52.49	51.67
(調整後)						
2025年1月期第3四半期	10,078	64.4	4,313	21.6	60.23	56.21
2024年1月期第3四半期	6,128	—	3,546	—	54.34	53.48

- (注) 1. 当社は、2023年1月期第3四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、2024年1月期第3四半期の対前年同四半期増減率は記載していません。
2. 当社は、2023年4月29日付で普通株式1株につき400株の割合で株式分割、2024年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益並びに1株当たりのれん償却前四半期純利益、潜在株式調整後1株当たりのれん償却前四半期純利益を算定しております。
3. 償却前営業利益は、連結営業利益に減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出しております。
4. のれん償却前四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益にのれん償却費を足し戻して算出しております。
5. 参考情報として、M&A関連手数料を足し戻した調整後連結経営成績を記載しております。なお、M&A関連手数料には下記を含んでおります。
- ①M&A執行手数料：仲介手数料、弁護士費用、DD費用、FA費用、企業価値算定費用
  - ②融資関連手数料：M&A関連の借入の融資関連手数料
  - ③株式関連手数料：株式資金調達費用（公募増資及び上場関連費用）

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
2025年1月期第3四半期	106,487		35,613		32.2
2024年1月期	52,141		19,664		37.2

(参考) 自己資本 2025年1月期第3四半期 34,315百万円 2024年1月期 19,427百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年1月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年1月期	—	0.00	—		
2025年1月期（予想）				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

## 3. 2025年1月期の連結業績予想（2024年2月1日～2025年1月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	110,000	97.5	7,000	30.3	6,600	26.5	4,300	2.9	58.99

	償却前営業利益		のれん償却前当期純利益		1株当たりのれん償却前当期純利益
	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	13,000	60.4	5,400	23.8	74.09

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2025年1月期（予想）の1株当たり当期純利益及び1株当たりのれん償却前当期純利益は、2024年11月30日までに行使された新株予約権を含めた予定期中平均株式数より算出しております。また、当社は2024年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。1株当たり当期純利益及び1株当たりのれん償却前当期純利益は、当該株式分割の影響を考慮した株式数を基準に算出しております。

### ※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 9社 （社名）株式会社シン・コーポレーション、プレビ株式会社、有限会社サンダイ、株式会社シトラム、株式会社アメックス、GENDA Capital 1号投資事業有限責任組合、GiGO VIETNAM Co., Ltd.、株式会社音通、株式会社音通エンタテイメント

除外 2社 （社名）プレビ株式会社、株式会社アメックス

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 有  
 ④ 修正再表示 : 無

（注）詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計上の見積りの変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年1月期3Q	76,660,050株	2024年1月期	68,593,200株
② 期末自己株式数	2025年1月期3Q	74株	2024年1月期	74株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年1月期3Q	71,602,114株	2024年1月期3Q	65,262,013株

（注）当社は、2023年4月29日付で普通株式1株につき400株の割合で株式分割、2024年6月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」及び「期中平均株式数」を算定しております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計上の見積りの変更) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9
(セグメント情報等の注記) .....	9
(収益認識関係) .....	11
(重要な後発事象) .....	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2024年2月1日～2024年10月31日）におけるわが国経済は、円安効果に伴うインバウンド需要の増加や、賃上げの浸透等によって個人消費の持ち直しも見られ、景気は緩やかに回復いたしました。一方で、物価高への継続した懸念に加え、政情変化や為替変動リスク、地政学リスク、世界経済の減速懸念など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のなか当社は、グループ各社の経営支援、エンタメ業界におけるM&A案件の開拓、検討及び実行、資金調達支援並びにDX支援を推進することで、GENDA（グループ全体を総称）の企業価値の向上に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間においては、当社が掲げている「世界中の人々の人生をより楽しく」というAspiration（アスピレーション＝大志）を体現すべく、2024年9月に新コーポレートロゴを制定いたしました。また、かかる大志のもと、2040年に「世界のエンターテインメント企業」になることを目指し、GENDAの主力事業であるアミューズメント施設のロールアップM&Aをはじめ、2024年10月には、カラオケ機器の販売・レンタルを展開する音通グループ（「株式会社音通」を親会社とする企業グループ、以下「音通」）を連結子会社とするなど、その他の事業領域においてもM&Aを積極的に実行いたしました。さらに、「アミューズメント」の領域においては、収益力の強化等を図る目的でグループ内組織再編を実施し、これらの結果、前期末比で連結子会社は新たに10社増え、2024年10月末における連結子会社数は29社となりました。M&Aの加速及びグループ内組織再編により、GENDAの主軸であるアミューズメント関連の収益基盤の強化と、その周辺領域への進出も拡大し、GENDAの描く「エンタメ経済圏」の構築が着実に進行しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は77,627百万円（前年同期比100.0%増）、償却前営業利益は9,416百万円（前年同期比55.6%増）、営業利益は5,420百万円（前年同期比30.1%増）、経常利益は4,988百万円（前年同期比20.8%増）、のれん償却前四半期純利益は3,513百万円（前年同期比2.5%増）と、一過性費用であるM&A関連手数料879百万円を吸収してなお前年同期比で増益となりました。一方で、同一過性費用に加えて、資本金の増加に伴う繰越欠損金の利用制限により、法人税等が前年同期比で増加したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,655百万円（前年同期比20.1%減）となりました。

なお、M&A関連手数料を足し戻した場合の当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は77,627百万円（前年同期比100.0%増）、償却前営業利益は10,078百万円（前年同期比64.4%増）、営業利益は6,081百万円（前年同期比43.3%増）、経常利益は5,867百万円（前年同期比37.5%増）、のれん償却前当期純利益は4,313百万円（前年同期比21.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,454百万円（前年同期比0.2%増）となり、売上高及び全ての段階利益において前年同期比を上回りました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （エンタメ・プラットフォーム事業）

「エンタメ・プラットフォーム事業」は、「アミューズメント」「カラオケ」「フード&ビバレッジ（F&B）」で構成されております。

株式会社GENDA GiGO Entertainment（以下「GENDA GiGO Entertainment」）を中心とする国内の「アミューズメント」においては、都市部での人流の増加やプライズゲーム売上の伸長、前期にオープンした店舗及びM&Aにより取得した店舗の寄与に加え、積極的な新規出店とロールアップM&Aに注力し、売上高は前年同期比で好調に推移いたしました。プライズゲーム等を中心とした従来型のアミューズメント施設のほか、カフェ・レストランとアミューズメントが融合した店舗等、新業態の出店にも注力し、合計17店舗の新規出店を行いました。当第3四半期連結会計期間においては7店舗の新規出店を行い、2024年8月に開業した関西初の旗艦店「GiGO大阪道頓堀本店」（大阪府大阪市中央区）では、GENDA GiGO EntertainmentがGENDAにグループインする前も含め、過去最高月間売上高（2024年9月）を記録するなど大変好調なスタートとなっております。これらに加え、M&Aにより、2024年2月のプレビ株式会社を皮切りに、有限会社サンダイ、株式会社アメックスがグループインしたほか、株式会社マタハリエンターテインメントよりアミューズメント施設1店舗を譲受し、2024年10月に「GiGOトナリエクレオつくば」（茨城県つくば市）として開業するなど、GENDAの主力事業である「アミューズメント」の店舗網拡大が順調に進行しております。また、2024年6月には、「fanfancy+ with GiGO」の会員アプリをリリースいたしました。本アプリは、GENDAが提供するサービスの相互送客を目的とした機能「GENDA ID」を導入した初のサービスであり、今後もGENDAが展開する各サービスに導入してまいります。

海外の「アミューズメント」においては、米国法人Kiddleton, Inc. がミニロケ（スタッフの常駐しないゲームコーナー）の積極的な新規出店及び既存店活性化に注力いたしました。ミニロケ359箇所を新規出店したことに加え、既存のミニロケの増床、プライズゲーム機の増台等が奏功し、売上高は前年同期比52.2%増（連結子会社化前を含む実績比）と好調に推移いたしました。また、台湾においては、2024年9月に、台湾奇恭股份有限公司が推し

活専門ショップの海外1号店となる「fanfancy+ with GiGO Garden City台北」(台北市)を出店するなど、合計5店舗の新規出店を行いました。これに加え、GiGO VIETNAM Co., Ltd.を設立し、ベトナム国内に2店舗の新規出店を行うなど、GENDAのプラットフォームが海外でも着実に拡大しております。

当第3四半期連結累計期間におけるアミューズメント施設は、新規出店30店舗(国内17店舗、海外13店舗)に加え、M&Aにより65店舗(全て国内)を取得した一方、10店舗(国内9店舗、海外1店舗)を閉店し、2024年10月末において、国内335店舗(前期末比73店舗増)、海外23店舗(同12店舗増)、合計358店舗(同85店舗増)となっております。また、2024年10月末におけるミニロケ拠点数は、国内828箇所(前期末比622箇所増)、海外648箇所(同340箇所増)、合計1,476箇所(同962箇所増)となっております。

「カラオケ」においては、2024年2月にカラオケ施設を全国に366店舗(2024年10月末時点)展開する株式会社シン・コーポレーション(以下「シン・コーポレーション」)を、2024年10月に音通を連結子会社といたしました。シン・コーポレーションの運営する「カラオケBanBan」では、独自の料金パック施策やアミューズメント施設「GiGO」との相互送客施策等により集客力が向上したことに加え、ミニロケの設置やGENDAのグループ企業である株式会社レモネード・レモニカ(以下「レモネード・レモニカ」)や株式会社シトラム(以下「シトラム」)が取り扱う商品を飲食メニューに導入するなど、グループシナジーの極大化にも注力した結果、売上が好調に推移いたしました。また、音通においては、シン・コーポレーションとの取引の拡大など、グループイン直後よりグループシナジーの発現に注力しております。

「F&B」においては、2024年5月に、酒類の輸入卸及び国内での販売を手掛けるシトラムを連結子会社といたしました。シトラムは人気のリキュール「クライナーファイグリング」の販路拡大や、「カラオケBanBan」への卸売販売等、GENDAとのアライアンスを推進いたしました。また、日本ポップコーン株式会社では、GENDAのグループ企業であるギャガ株式会社(以下「ギャガ」)が配給・公開した映画とコラボレーションしたポップコーンを企画・提供し、「GiGO」で販売したほか、レモネード・レモニカでは、スタンド型レモネード専門店「LEMONADE by Lemonica」を「GiGO総本店」(東京都豊島区)や「GiGO大阪道頓堀本店」内に店舗するなど、グループシナジーの極大化への取り組みが順調に進行しております。また、レモネード・レモニカでは、直営店3店舗を新規出店するなどし、2024年10月末におけるF&B店舗数は61店舗(前期末比5店舗増)となっております。

以上の結果、GENDAの店舗及びミニロケを合わせた「エンタメ・プラットフォーム」の拠点数は2,290拠点(前期末比1,447拠点増)に達し、「エンタメ・プラットフォーム事業」の売上高は69,473百万円(前年同期比80.3%増)、セグメント利益は8,975百万円(前年同期比48.9%増)となりました。なお、M&A関連手数料を足し戻したセグメント利益は9,633百万円(前年同期比57.9%増)となっております。

#### (エンタメ・コンテンツ事業)

「エンタメ・コンテンツ事業」は、「キャラクター・マーチャндаイジング(MD)」と「コンテンツ&プロモーション」で構成されております。

「キャラクターMD」においては、株式会社フクヤ(以下「フクヤ」)及び株式会社アレスカンパニー(以下「アレスカンパニー」)が、「GiGO」を中心とするGENDAのアミューズメント施設へのプライズ供給の拡大に注力いたしました。また、フクヤでは、推し活専門ショップ「fanfancy+ with GiGO」の出店拡大に連携し、商品供給を拡大いたしました。GENDAの主力事業である「アミューズメント」と「キャラクターMD」との垂直統合が順調に進んでいると同時に、アレスカンパニーはグループ内組織再編によりアミューズメント関連製品のレンタル・販売事業を承継し、営業効率の向上が図れた結果、社外との取引も順調に拡大しております。

また、「コンテンツ&プロモーション」においては、株式会社ダイナモアミューズメントがテーマパークの常設アトラクションの設計・施工を受注したほか、2024年6月には、株式会社VAR LIVE JAPANよりVRゲーム事業を譲受いたしました。また、映画配給を手掛けるギャガが、第76回カンヌ国際映画祭の最高賞「パルムドール」受賞及び第96回アカデミー賞脚本賞を受賞した「落下の解剖学」やアニメ映画「デッドデッドデーモンズデデデデストラクション」(前章・後章の2部作)等、当第3四半期連結累計期間に邦画・洋画・アニメと多彩なラインアップで合計22作品の映画を配給・公開いたしました。当第3四半期連結会計期間においては、2024年8月に1館で公開された「侍タイムスリッパ」が、ロコミにより高評価が広がり、2024年10月末時点で全国のべ320館まで上映を拡大しております。

以上の結果、「エンタメ・コンテンツ事業」の売上高は10,642百万円(前年同期724百万円)、セグメント利益は377百万円(前年同期比730.4%増)となりました。なお、M&A関連手数料を足し戻したセグメント利益は378百万円(前年同期比660.1%増)となっております。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は106,487百万円となり、前連結会計年度末に比べ54,346百万円増加いたしました。流動資産合計は44,738百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,170百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加10,934百万円であります。固定資産合計は61,749百万円となり、前連結会計年度末に比べ33,175百万円増加いたしました。これは主に、のれんの増加11,760百万円、M&Aによる子会社の新規連結に伴う店舗等の建物及び構築物の増加5,708百万円、アミューズメント施設機器の増加4,666百万円、敷金の増加4,054百万円であります。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は70,874百万円となり、前連結会計年度末に比べ38,397百万円増加いたしました。流動負債合計は33,756百万円となり、前連結会計年度末に比べ16,864百万円増加いたしました。これは主に、短期借入金の増加7,549百万円、1年内返済予定の長期借入金の増加4,871百万円であります。固定負債合計は37,117百万円となり、前連結会計年度末に比べ21,533百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金の増加16,259百万円、資産除去債務の増加3,261百万円であります。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は35,613百万円となり、前連結会計年度末に比べ15,948百万円増加いたしました。これは主に、新株発行及び株式交付による資本金の増加5,073百万円、資本剰余金の増加7,093百万円、また親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加2,655百万円であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年9月9日の「通期業績予想の修正（上方修正）に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,379	23,313
売掛金	3,689	5,445
有価証券	—	6,000
棚卸資産	4,374	6,290
その他	3,124	3,687
流動資産合計	23,567	44,738
固定資産		
有形固定資産		
貸貸資産(純額)	991	1,989
建物及び構築物(純額)	4,268	9,977
工具、器具及び備品(純額)	749	1,186
アミューズメント施設機器(純額)	5,797	10,463
土地	1	2,073
建設仮勘定	696	1,680
その他(純額)	76	185
有形固定資産合計	12,581	27,556
無形固定資産		
ソフトウェア	532	718
のれん	4,992	16,752
その他	174	225
無形固定資産合計	5,698	17,696
投資その他の資産		
投資有価証券	113	919
敷金	6,531	10,586
繰延税金資産	2,037	2,952
退職給付に係る資産	996	1,115
その他	614	922
投資その他の資産合計	10,293	16,496
固定資産合計	28,573	61,749
資産合計	52,141	106,487

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,213	4,175
短期借入金	3,512	11,061
1年内返済予定の長期借入金	3,679	8,551
未払金	1,989	2,875
未払法人税等	1,042	913
賞与引当金	414	710
その他	3,040	5,469
流動負債合計	16,892	33,756
固定負債		
長期借入金	10,571	26,830
リース債務	799	1,394
資産除去債務	3,972	7,234
退職給付に係る負債	111	190
その他	129	1,468
固定負債合計	15,584	37,117
負債合計	32,476	70,874
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,160	7,234
資本剰余金	3,234	10,328
利益剰余金	14,024	16,679
自己株式	△0	△0
株主資本合計	19,419	34,242
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△4
為替換算調整勘定	8	78
その他の包括利益累計額合計	7	73
新株予約権	5	4
非支配株主持分	231	1,293
純資産合計	19,664	35,613
負債純資産合計	52,141	106,487



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年10月31日)
売上高	38,808	77,627
売上原価	29,648	60,759
売上総利益	9,160	16,868
販売費及び一般管理費	4,995	11,448
営業利益	4,164	5,420
営業外収益		
為替差益	116	74
受取補償金	69	91
固定資産売却益	—	66
その他	40	136
営業外収益合計	226	369
営業外費用		
支払利息	136	456
株式交付費	—	128
株式公開費用	60	—
融資手数料	7	109
その他	59	106
営業外費用合計	264	801
経常利益	4,126	4,988
特別利益		
段階取得に係る差益	191	—
特別利益合計	191	—
特別損失		
減損損失	—	41
特別損失合計	—	41
税金等調整前四半期純利益	4,318	4,947
法人税等	986	2,084
四半期純利益	3,331	2,862
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	207
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,324	2,655

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年10月31日)
四半期純利益	3,331	2,862
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△3
為替換算調整勘定	8	71
持分法適用会社に対する持分相当額	△21	—
その他の包括利益合計	△12	67
四半期包括利益	3,318	2,929
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,311	2,721
非支配株主に係る四半期包括利益	7	208

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年7月30日付で当社を株式交付親会社、株式会社シトラムを株式交付子会社とする株式交付の株式の発行により資本剰余金が3,200百万円増加しております。

また、2024年7月31日を払込期日とする新株発行により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ5,026百万円増加しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が7,234百万円、資本剰余金が10,328百万円となっております。

(会計上の見積りの変更)

一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、アミューズメント施設機器の耐用年数をより実態に即した経済的使用可能予測期間に基づく耐用年数に変更しております。

この変更に伴い、従来の耐用年数によった場合に比べ、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益はそれぞれ455百万円増加しております。

なお、セグメント情報に与える影響については、セグメント情報等に記載しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年10月31日)
減価償却費	1,784百万円	3,137百万円
のれんの償却額	101	858

(セグメント情報等の注記)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 2023年2月1日 至 2023年10月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表計上額
	エンタメ・プラットフォーム	エンタメ・コンテンツ	計		
売上高					
外部顧客への売上高	38,526	270	38,797	11	38,808
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	454	454	△454	—
計	38,527	724	39,251	△443	38,808
セグメント利益	6,026	45	6,072	△1,907	4,164

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,907百万円には、セグメント間取引消去△73百万円、報告セグメントの減価償却費△1,773百万円及びのれん償却額△101百万円、並びに報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額40百万円が含まれております。全社収益は主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

2. 報告セグメントのセグメント利益は、営業利益に減価償却費及びのれん償却費を足し戻した償却前営業利益にて表示しております。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間（自 2024年2月1日 至 2024年10月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額（注）1	四半期連結 財務諸表計上額
	エンタメ・プラットフォーム	エンタメ・コンテンツ	計		
売上高					
外部顧客への売上高	69,432	8,194	77,626	1	77,627
セグメント間の内部 売上高又は振替高	40	2,448	2,488	△2,488	—
計	69,473	10,642	80,115	△2,487	77,627
セグメント利益	8,975	377	9,353	△3,933	5,420

- (注) 1. セグメント利益の調整額△3,933百万円には、セグメント間取引消去△160百万円、報告セグメントの減価償却費△3,127百万円及びのれん償却額△858百万円、並びに報告セグメントに配分していない全社収益及び全社費用の純額213百万円が含まれております。全社収益は主に子会社からの経営指導料であり、全社費用は主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
2. 報告セグメントのセグメント利益は、営業利益に減価償却費及びのれん償却費を足し戻した償却前営業利益にて表示しております。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(耐用年数の変更)

「会計上の見積りの変更」に記載のとおり、一部の連結子会社は、第1四半期連結会計期間より、アミューズメント施設機器の耐用年数をより実態に即した経済的使用可能予測期間に基づく耐用年数に変更しております。

この変更に伴い、従来の耐用年数によった場合に比べ、「エンタメ・プラットフォーム事業」の当第3四半期連結累計期間の減価償却費は455百万円減少しております。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

第1四半期連結会計期間において、新たに株式会社シン・コーポレーションを連結の範囲に含めたことに伴い、第1四半期連結会計期間より「カラオケ」区分を追加しております。

前第3四半期連結累計期間（自 2023年2月1日 至 2023年10月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	エンタメ・プラットフォーム	エンタメ・コンテンツ	計		
主要なサービス					
アミューズメント	37,498	—	37,498	—	37,498
カラオケ	—	—	—	—	—
フード&ビバレッジ	559	—	559	—	559
キャラクターMD	—	11	11	—	11
コンテンツ&プロモーション	—	258	258	—	258
その他	—	—	—	11	11
顧客との契約から生じる収益	38,058	270	38,328	11	38,340
その他の収益(注) 2	468	—	468	—	468
外部顧客への売上高	38,526	270	38,797	11	38,808

(注) 1. 「その他」の区分は、事業セグメントに属しない全社収益であります。

2. 「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づくリース収益であります。

当第3四半期連結累計期間（自 2024年2月1日 至 2024年10月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	エンタメ・プラットフォーム	エンタメ・コンテンツ	計		
主要なサービス					
アミューズメント	51,091	—	51,091	—	51,091
カラオケ	15,476	—	15,476	—	15,476
フード&ビバレッジ	2,516	—	2,516	—	2,516
キャラクターMD	—	5,132	5,132	—	5,132
コンテンツ&プロモーション	—	2,808	2,808	—	2,808
その他	—	—	—	1	1
顧客との契約から生じる収益	69,083	7,940	77,024	1	77,025
その他の収益(注) 2	348	253	602	—	602
外部顧客への売上高	69,432	8,194	77,626	1	77,627

(注) 1. 「その他」の区分は、事業セグメントに属しない全社収益であります。

2. 「その他の収益」は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づくリース収益であります。

## (重要な後発事象)

## (取得による企業結合)

当社は、2024年6月11日開催の取締役会において、当社の連結子会社であるKiddleton, Inc. (以下「Kiddleton」) が、National Entertainment Network, LLC (以下「National Entertainment Network」) を傘下に有すClaw Holdings, LLC (以下「Claw Holdings」) の持分の100%を取得することを決議し、2024年11月1日付で株式を取得いたしました。

## 企業結合の内容

## (1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 : Claw Holdings, LLC

事業の内容 : 持株会社

## (2) 企業結合を行った主な理由

当社グループにて米国ミニロケ事業を行うKiddletonは、米国にて640箇所(2024年10月末時点)のミニロケを展開しており、従来は米国の市場に存在しなかった日本式の小型プライズゲーム機や「Kawaii」デザインの景品を提供するなど、独自性を持って事業展開しております。

一方で、National Entertainment Network は、米国にて約8,000箇所のミニロケを展開しWalmartやKroger, Denny'sなどの米国大手企業との取引があります。また、全米をカバーするメンテナンスネットワークを有しており、ゲーム機器の修理、ラッピング、保管を行う自社工場も有しております。さらに、DX化にも取り組んでおり、積極的な事業拡大と革新的な姿勢を持つオペレーターであります。

同社の取得により、同社が有する全米のネットワークにKiddletonのノウハウを組み込み、メンテナンスネットワークの統合、現金回収やプライズ補充などのオペレーションの統合、Kiddletonを含む当社グループのプライズ調達機能及びゲーム機器調達機能の活用、クレジットカードリーダーの設置やデジタル会員制度の推進など、更なるシナジー効果の発現により、当社グループの企業価値向上が期待されます。

## (3) 企業結合日

2024年11月1日

## (4) 企業結合の法的形式

現金を対価とする持分取得

## (5) 結合後企業の名称

名称に変更はありません。

## (6) 取得した議決権比率

100%

## (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社の連結子会社が現金を対価として持分を取得したことによるものです。